2023年6月10日
管理本部　環境安全部

安全衛生だより第６号

１．７月全国行事

１）国民安全の日　　７月１日
２）全国安全週間　　７月１日～７日

２．安全・衛生・防災の心得①　：　電気設備等の点検・整備を

６月のこれからの時期の職場では、特に電気設備において、高温・多湿による絶縁不良や劣化が起こり、人の側も衣類や皮膚の湿潤化によって電気抵抗が下がり、漏電事故や感電災害などのリスクが高くなります。職場の身近な電気設備等について次のチェックを行い、不備な点は電気技術者の指導を受けるなどして改善しましょう。

①制御盤、分電盤、スイッチボックス等の中や外に不用品等はないか。
　ゴミ・ホコリで汚れていないか。表示は良いか。
②電気設備に雨水等が侵入する恐れはないか、また、湿潤な状態になってはいないか。
③延長コードが通路を横切る場合は、覆い等で保護されているか。
④複数のコードが接続されているコンセント等には表示をしているか。
⑤容量以上のタコ足接続はないか。コンセントとプラグの隙間にホコリが溜まっていないか。
⑥コードやソケット等に損傷等はないか。
⑦アースや感電防止装置の機能は正しく保たれているか。
⑧携帯用電動工具等は損傷していないか。
⑨感電防止用の保護具、器具類は正しく管理し、直ちに使えるようになっているか。
⑩電気系統の異常については電気技術者等に報告し措置するようにしているか、など。

２．安全・衛生・防災の心②　：　廃棄スプレー缶の爆発相次ぐ

スプレー缶の不適切な処理による爆発事故が全国で相次いでいます。環境省は、引火の恐れがあるため廃棄時に缶に穴を開けないよう求めていますが、ごみ処理業務の担い手である各地の自治体で、「穴開け不要」としているのは４割にとどまり、ルールが異なっています。

「穴開け不要」が自治体に浸透しない理由について「ガスが残った危険なスプレー缶が他のごみと一緒に袋にまとめて捨てられていて、回収事業者は気付きにくい」と言います。

事故の多発を踏まえ、本年１月に環境省は、改めて自治体に、スプレー缶の廃棄の際は、しっかりと中身を使い切ることが大切とした上で、余ったガスを処理する際には「ガス抜きキャップなどを使い、穴を開けない方が望ましい」と呼びかけています。

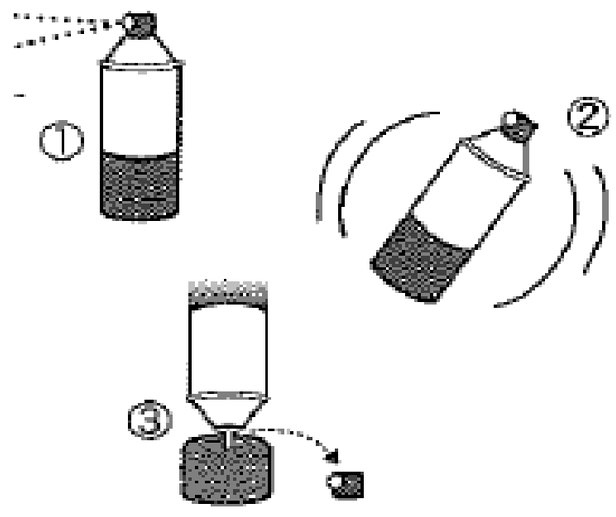
また、「スプレー缶に使用されるプロパンやブタンなどのガスは空気より重いため、換気扇を回してもほとんど外に出て行かない。ガスを抜く際に風通しの良い屋外で作業することが必要」と指摘しています。

スプレー缶を処分する際の注意点

①製品を使い切り中身を空にする
②缶を振って中身が空になったか確認する
③ガス抜きキャップを使って、ガスを抜く

↓

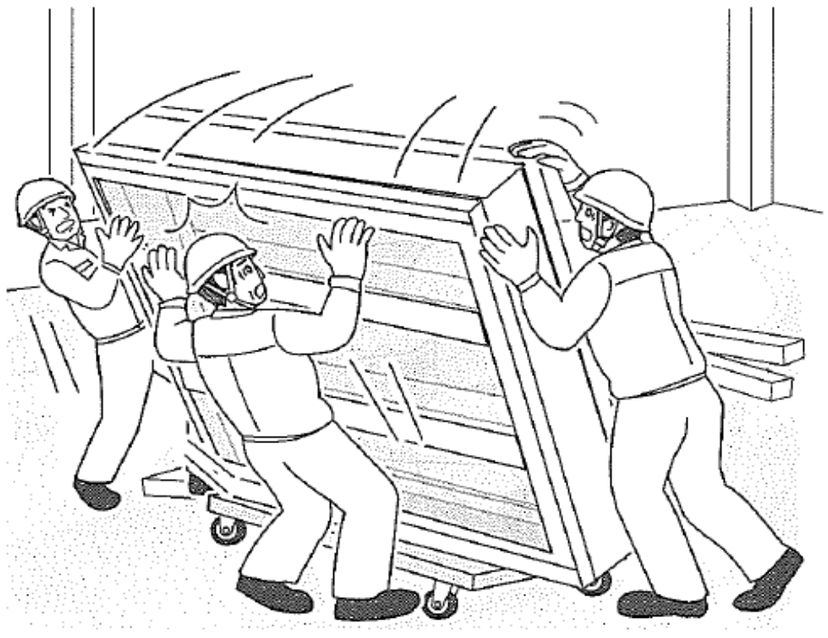
分別の仕方を確認して処分



３．他社　事故・災害事例から：運搬中のパレットが倒れて下敷き、重傷

（１）災害発生状況

ビルの建築現場で、搬入されたガラスのパレット（高さ１．７ｍ、幅２．０ｍ、ガラス２５枚、全重量約９００Ｋｇ）を台車に積んで運搬中、台車が床の障害物に乗り上げて転倒し、１人が下敷きになって重傷を負いました。



（２）災害発生原因と補足事項

①複数人員で重量物を移動・運搬する危険な共同作業にも関わらず指揮・監督する者がいなかったこと。

②運搬物に対して台車が小さく、積み荷とのバランスが悪かったこと。

③床に障害物があり、無理に通ろうとしたこと。

④ガラス等の重量物運搬の作業手順が定められていなかったこと、など。

（３）再発防止対策

類似災害の防止のためには、次のような対策の徹底が必要です。

①始業前ミーティングで本日の作業計画、注意事項等を指示・確認する。

②重量物等の運搬が予測される場合は、重量及び荷姿等に合致した台車を使用する。

③重量物等を台車で運搬する経路は、あらかじめ障害物等がないかを確認し、不都合があったら整備しておく。

④パレットの運搬方法についての作業手順書を作成し、関係者に周知徹底を図る。

⑤ＫＹＫ（危険予知活動）を活性化し、特に危険を伴う共同作業等の場合は、作業前に注意事項を確認しあう。など。

●環境安全部より：当社およびグループ会社でも、重量物の移動時にバランスを崩し、支えきれず負傷した災害が発生しております。再発防止策として作業者への安全教育とともに転倒防止構造への改造等が行われました。重大災害となる可能性も高いため、事業場におかれましても類似災害の防止をよろしくお願い申し上げます。パーカーグループ安全作業基準書（初版）の中で、参考資料３－１・重量物の危険性（重大災害事例に学ぶ）ついて記載しておりますのでご参照下さい。

４．当社　良い事例（抜粋）

●九州第二工場（防錆）

大型化成ライン設備更新について塩酸スクラバーによる作業環境改善を実施

●九州第二工場（熱処理）

イソナイト搬送工程での治具取り外しロボットを導入したことにより作業性と安全性を向上

５．ヒヤリハット事例

●事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	作業中
どこで	シャッターの前
何をしている時に	製品を積んだ台車で場内を移動中しシャッターを開けた時
どうなった	向こう側に人が立っていてぶつかりそうになった

以上